

第 51 回 Society of Toxicology (SOT) 学術年会派遣報告②
－教育コースへ参加して－

エーザイ株式会社 筑波安全性研究部
森山 智之

2012年3月11日から15日まで、第51回 Society of Toxicology (SOT) が、米国サンフランシスコ市のモスコニコンベンションセンターにて開催され、SOT 教育コース派遣者(日本毒性学会)として参加の機会に恵まれたので、所感を交えて報告する。なお、教育コースの内容については別の機会に紹介させていただく。

今回の SOT では、以下の4つが大きなトピックとして取り上げられていた。

- ① 毒性や病態における遺伝子発現の異常(エピジェネティクスをターゲットとした創薬とその安全性評価。毒性バイオマーカーとしてのマイクロ RNA の利用。発がんにおけるエピジェネティクス及びマイクロ RNA の役割など)
- ② 毒性メカニズム(心毒性予防のための分子生物学的基礎。ナノマテリアルの *in vivo/in vitro* 毒性試験法とその予測性。ライソゾーム関与の毒性など)
- ③ クリニカルトキシコロジー(サプリメントの品質問題とヒトの健康に対する影響。イメージング技術の臨床・非臨床試験への応用。薬物誘発性肝障害など)
- ④ レギュラトリーサイエンス(毒性試験における新技術の導入とその規制当局の受け入れ。バイオシミラーの開発とレギュレーションなど)

その他として、東日本大震災から1年経過したが、未だ世界中が注目する「原発事故」について、「Fukushima Radiation Toxicity」というポスターセッションが設けられていたのも特徴であった(雑感となるが戦争時には化学兵器に関するポスターが多いなど、トキシコロジーの分野においてもその時々世相を反映していると改めて感じた)。個人的には、中国 GLP の現状(規制、施設、海外規制当局によるデータの受け入れ)を FDA と SFDA の両側面から紹介されたセッションも興味深かった。

SOT はトキシコロジーの分野では最も大きな学会であり、最先端のトキシコロジーサイエンスのみならず、米国当局の考えや規制の動向を直接感じ取り情報収集することのできる大変貴重な場であると感じた。また、滞在中天候には恵まれなかったが、霞がかかったゴールデンゲートブリッジ、フィッシャーマンズワーフでのシーフード、名物のケーブルカーなどなど、霧と坂の街サンフランシスコも十分に堪能させていただいた。

最後に、SOT 参加という貴重な機会を与えていただいた日本毒性学会理事長 菅野純先生、教育委員会委員長 鍛冶利幸先生並びに事務局の皆様にご心より感謝申し上げます。

